

感動一点の場

『太陽と馬』
1967年 小川原 脩 画



ずんぐりとした体つきの大きな馬が、背中越しに振り返るような姿で描かれています。馬の特徴である長い首や胴が強調されていないため、思わず別の動物ではないかと想像してしまいます。視線の先に浮かぶ赤い円は、空に掛かる太陽でしょうか。それとも沈みゆく夕陽なのかもしれません。デフォルメされた動物のかたちと、物語が生まれそうな場面は、絵本の挿絵を思わせます。

本作は大胆な筆遣いと明るい色彩が印象的です。よく見ると、橙、黄、緑の3色で描かれていることが分かります。濃い橙色の下塗りの上に、黄色で馬の頭や背、後ろ脚が大きなストロークで描かれ、たてがみと尾には鮮やかな緑色が置かれています。塗り残された橙色が画面の随所に現れ、内側から熱が立ち上るようです。さらに淡い黄色が重ねられ、全体は柔らかな響きを帯びています。太陽もまた、濃い色を淡い色が包み込むように形づくられています。

馬のモチーフや時代背景について語ることもできますが、本作は何よりも、油絵具の感触と色彩を楽しみながらイメージをかたどって行く、小川原の描く姿を率直に伝えてくれる作品です。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

ふるさと探訪

514回

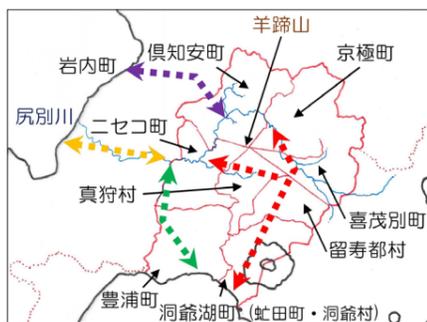
あぶた 虻田郡

今回は、虻田郡の始まりについて探訪したいと思います。下の地図に赤枠で示した範囲が虻田郡で、羊蹄山麓町村と洞爺湖町（旧：虻田町・洞爺村）・豊浦町が範囲となります。1869（明治2）年、明治政府はそれまで「松前地、蝦夷地」と呼ばれた大地を日本の国郡里制に合わせて全体を「北海道」、その中の国を「胆振国」など11の国、国の中を「虻田郡」など86の郡に分けました。この素案は、開拓判官の松浦武一郎が開拓使に提出した『北海道々国郡選定上書』が基本となっています。

武四郎は、江戸時代に何度も蝦夷地を見分し、当時のアイヌ民族の暮らしや交易内容を記録して、当時のアイヌの生活圏や松前藩との交易拠点^{ていし}を基本に郡を考えました。武四郎が書いた『丁巳日誌』によると、虻田郡の範囲はアブタ場所として、虻田や豊浦のアイヌが山を越えて尻別川上流や支流の真狩川・昆布川でサケ漁や狩猟をしていました。尻別川河口のアイヌは昆布川河口までが活動範囲、岩内のアイヌは堀株川をさかのぼり山を越えて尻別川支流のソースケ川でサケ漁をしていました。

風土館では『丁巳日誌』についての解説書を用意していますので、ぜひご覧ください。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



▲虻田郡と各地アイヌの活動範囲

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小島英一展「B. M. WOMAN」

岩内町出身・在住で独創的な人体の表現を追求する画家、小島英一を紹介しします。

会期：開催中～3月29日(日)

■第2展示室

小川原脩展「遙かなるイマージュ」

1988年に道立近代美術館で開催された回顧展のタイトルで、小川原の創作姿勢を表現しています。社会や自らを投影した作品、小川原の見た原風景と重なる作品群も紹介しします。

会期：開催中～3月29日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

ギャラリートーク

1月24日から開催の展覧会「遙かなるイマージュ」に展示されている作品について、学芸員が解説しします。

日時：2月14日(土) 14時～14時30分

会場：第2展示室（無料）※予約不要

講師：沼田絵美（副館長）

おとなの手しごと (35)「ひと筆書きで絵を描こう」

小川原作品や好きなモチーフをひと筆書きしてみませんか。

日時：2月21日(土) 14時～16時

会場：ロビー（無料）

講師：金澤逸子（学芸スタッフ）

定員：10名※要予約、高校生以上、親子可

予約受付：電話申込（☎21-4141）

■ロビー・ギャラリー

冬期間に「ロビー・ギャラリー」（町内や近隣町村で創作活動を行う作家・愛好家の展示）を開催しします。詳細は町HP。

展示者：佐藤毅さん（書道人）「笑道展」

日時：2月2日(月)～28日(土) 会場：ロビー（無料）



倶知安風土館のお知らせ

■ふるさと探訪

旭ヶ丘公園スノーシューハイク

冬の旭ヶ丘公園をスノーシューで歩きながら、季節の鳥や植物の冬芽を観察してみませんか。スノーシューは数量限定で貸し出し可能です。ご相談ください。

日時：2月21日(土) 9時～12時30分

集合：倶知安風土館 定員：10名※要予約

講師：花井悟さん（北海道自然ガイド）

参加費：250円（保険料）

予約受付：2月13日(金)までに電話申込（☎22-6631）

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円 [400円]

高校生 300円 [200円]

小中学生 100円 [50円]

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円 [100円]

高校生以下、美術館観覧者無料

※年間パスポート500円(発行日より1年有効)

開館時間は9時～17時(最終入館16時30分)

※[]内は10名以上の団体料金

2月の休館日 毎週火曜日

14日(土)・15日(日)は雪トピアの協賛のため

両館を特別料金(団体料金)で観覧できます

ふるさと探訪 麓花に参加しませんか

昨年7月から、町内在住の中学生・高校生が地域の自然環境や文化について、幅広い世代と交流しながら学ぶ活動サークル「くっちゃん風土づくりサークル『麓花』」の活動が始まりました。

この麓花は、将来の地域を担う次世代の育成を目的として、倶知安風土館が事務局となり、地域の皆さんにも協力を得ながら、町の自然・歴史・文化などに興味がある学生が参加して資料の調査や情報の収集、発信といった探求活動を行っています。

これまでの活動を発表する場として、2月15日の「雪トピアフェスティバル2026」では、くっちゃん風土づくりサークル麓花「活動展示&クイズスタンプラリー」を企画していますので、たくさんの方々に麓花の活動について触れてもらいたいと思っています。皆さんのご来場をお待ちしています。

中高生に限らず麓花の活動を知りたい、参加したいと思われた方は、倶知安風土館までお問い合わせください！

館長 高橋 淳之